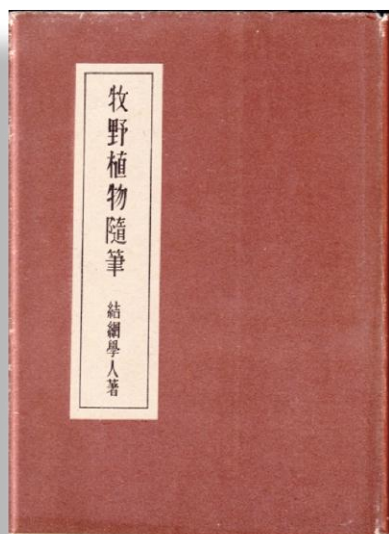


鹿沼の自然・栃木の旅

月報第 5 号

(2012 年 9 月)



～続・牧野富太郎生誕150年～

北光クラブ
自然観察クラブ

結網学人こと牧野富太郎著「牧野植物随筆」(昭和22年・鎌倉書房)

今年生誕 150 年に当たる植物学者・牧野富太郎博士 (1862-1957) が 68 歳の頃の昭和 5 年 9 月、東京西郊の雑木林で開催された植物採集会に参加した尾崎喜八 (1892-1974、作家、山岳と自然を主題とした詩や散文に多くの優れた作品を残した) が、翌月の報知新聞に同行記を寄稿、当時の会の雰囲気をよく伝える文章として、それから十数年を経た戦後の昭和 22 年、博士が自著に引用紹介されたものです。82 年前の、言わば自然観察会の様子をご想像下さい。

「尾崎喜八君の書かれた
東京植物同好会に於ける植物採集会の記」より

佳い秋の日曜日。新宿停車場の玄関を、まだすがすがしく斜に照らしている朝の太陽。そこを支配する雑踏の中の時間の秩序。着車、発車。井戸の底から出て来るような拡声器の声。(中略)

出たり入ったりする乗客の流れの中で、改札口(中略)に近く、三四十人の人が一塊りになって佇んでいる。男もいれば女もいる。年とった人もいれば若い人もいる。小学校の生徒もいる。女の先生らしい人もいる。併し一群のこの人達は例外なしに皆採集胴乱を吊っている。町中では少しきまりが悪いのか。風呂敷へ包んで抱えている洋装の女の人もある。

(中略)牧野富太郎先生は、右左からの皆の挨拶に、にこにこしながら応えて居られる。

タスカンの一文字帽に、夏の灰色のサージの上着。ズボンに学生服の黒である。左の肩から緩やかに吊った、大きな新しい薄緑の胴乱。(中略)

…先生は若い真摯な学生や、子供達や、女の人達に取巻かれて欣然として居られる。今日は東京植物同好会の採集日。素朴な俗門の信徒を引率して、牧野先生は自由の野の羊飼か、老いて益々旺んな族長ノアのように見える。

(次ページへ続く)

集まり集まって60人に垂んとする一行が、先生を真中にして^{くにたち}国立駅を出る。不連続線の去った後の久しぶりの秋晴れの空には、藤原さんのいう^{しらすくも}白簀雲が白い釣針や羊毛を浮べている。分譲地の小石を敷きつめた道路の奥に雪をなすった富士が見える。美しい^{おおむれやま}大群山がその左に寄り添っている。日光は嬉々としている。心がのびのびする。もう一度遠い昔の学生時代が帰って来た気がする。

皆がぞろぞろ歩く。大半はもうあたりの藪や林へもぐりこんでいる。一名国立分譲地は、結局広大な谷保の雑木林である。文化住宅や学校などは散生する点景に過ぎない。昔近隣の百姓が馬や牛の死骸の捨場にしたというこの広い雑木林のいたるところ、今は秋の植物が茂りに茂っている。

五六種類取って来ては先生に名を訊く。それは絶え間がない。だから先生のまわりは常に人だかりである。その黒山が遅々として進む。

「先生これは何ですか」「それはサワヒヨドリ。フジバカマとは違う」「先生これは」「センダングサ」「先生これは何と申しますか」「これはヤブマメ。こっちはネコハギ」「これは」「ネバリタデ。そら、この通りねばるだろう」僕も伺う。「先生これは何で御座いますか」「これはヤマハッカ。これがヒメジソ。これはシラヤマギク。こっちがヤマシロギク。間違えないように。シラヤマ、ヤマシロ」

まったく、大船に乗った気がする。触目の草の一茎、花の一輪。それを先生は立ちどころに説明される。しかも心からの好意を以てである。慈父の愛を以てである。訊く者に対して、また植物に対して。こうして分封した蜂群のような一行は、先生という女王蜂を中心に回転しながら秋の野を進む。

(中略)先生が百本の植物に対して百の名称を断ぜられるとしても、僕はただ先生の記憶の強大さ、知識の広さに驚くだけである。植物学者としての先生の大きなカリテから見れば、それは当然な事のように思われる。しかし一人の可憐な小学生が——腰に小さい風呂敷包みの弁当を下げ、肩から小さい胴乱をつるした子供が、何か小指の先ほどの植物を探して来て「先生これ何ですか」と訊いた時「これは松」といいながら、その子供の頭へ片手を載せられた時の、あの温顔の美しさを僕は忘れない。また誰かがヒカゲスゲの根に寄生したナンバンギセルを

(次ページへ続く)

取って来た時、「ヒカゲスゲに寄生したのは珍しい」といいながら、それは「差上げます」といわれて喜ばれた顔も僕には忘れられない。(中略)

日野橋に近い広々した多摩の川べり。多摩丘陵と武蔵野台地との大きなひろがり。南西相模の大山から北方武甲山まで、蜿蜒と連る山々を見渡す晴れた日の眺望。一行の胴乱は採集した植物でぎっしりである。皆が弁当を開く。きらきら輝く水面を見たり、正面に悠々と裾を曳く富士を眺めたりしながら空腹を満たす。先生はクリーム入りのパンを食べて居られる。その間にも植物の名を訊く人達は絶えない。人は今年の夏の登山で採集して来た高山植物の乾腊標本を先生に見せる。先生はパンを頬ばりながら一々名を教えられる。女の人達は食事が早い。こそこそ済まして三々五々採集に出掛ける。そういう人達がまた名を訊く。先生は忙しい。しかし楽しげに検査し、答え、質問を受けられる。僕はこの情景を多くの人に実に見せたい。今の世ではもうそんなに屢々は見ることの出来ない親愛の情景である。

食後堤防の草に埋まって聴く先生の講演。ヨモギやメドハギの繁った斜面が天然の教室である。カヤツリグサ科の植物についてのその講演は、有益な、興味津々たるものであった。今僕はここに自分の概要筆記の一端なりと紹介する紙数を持たないのを残念に思う。しかし先生の講演は、今まで僕の聴いた他の多くの如何なる講演とも違う。時々土佐なまりのまじる声のよく透る、深いうん蓄を手づかみにして示されるその話。それはあけびろげた平和な自然の中での、青空と太陽との下での、今日の集まりの最高潮の時であった。

それから一向は堤防を立川の方へ向った。僕は先生と御別れて友人と国立へ引返した。ぞろぞろ続く人々にまじって先生の姿が何時までも見える。(中略)

東京植物同好会は毎月1回採集会を催す。僕は牧野先生の健康を祈ると共に、志ある人々の参加を心から希望して止まない。



北光クラブ・サマースクール2012

昆虫観察

8月5日（日） 天気・晴れ

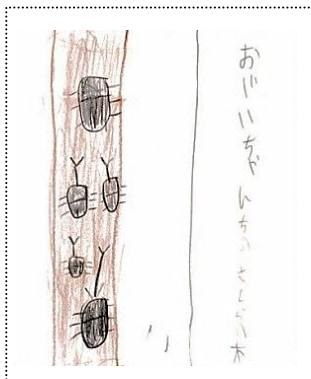
暑い日が続く夏休みたけなわの日曜日、眠い目をこすって集合した早朝6時、すでに暑い夏空の下を捕虫網や虫かごを手に期待に胸ふくらませて野山に繰り出しました。

講師が案内する「穴場」の最初は、ヤナギなどが茂る黒川の河原。やぶの中にコジュケイの巣を発見しました。次に鹿沼市を出て日光市岩崎の雑木林へ。おとなも子どもも夢中で虫のいそうな木の幹を蹴ったり叩いたりして、びっくりして落ちてくる獲物を拾います。飛び立った虫もすかさず網の中へ。さらに足を延ばして板荷へ。もう十分採れたはずですが、さらに1か所、糠塚山のぬかるむ雑木林にも意欲的に踏み込んで、カブトムシ、クワガタ、その他いろいろな種類の虫が集まりました。みんなほくほく顔で日の高くなった朝の道を帰っていきました。

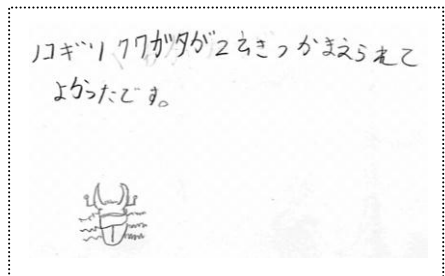
※ 参加者内訳

1年生 2名、2年生 6名、3年生 2名、4年生 4名、6年生 1名
保護者 10名＋スタッフ4名（計29名）

※ 参加者からいただいたおたより（一部省略）



おじいちゃんちのさくらの木
（和田翔一朗・北小2年）

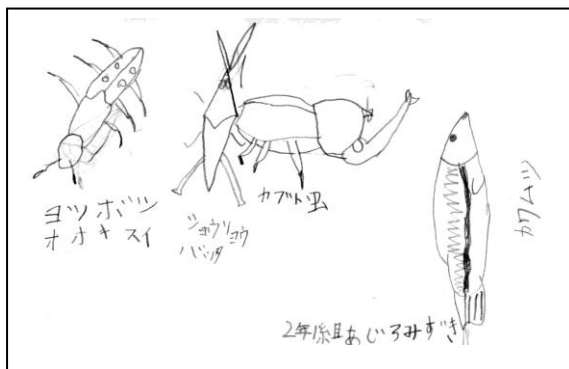


（？さん・おなまえがありませんでした）

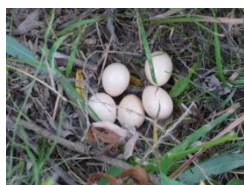
8月5日(日) こんちゅうかんさつにさんかして

ぼくはショウリョウバッタとカブト虫をとることができました。山口さんにヨツボシオオキスイという虫をとってもらって、おしえてもらいました。わだくんがとったヨツボシヒラタシデムシも教えてもらいました。

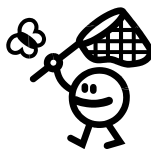
あべさんはすごいなと思ったのは、川ぎしの木の間にたまごを見つけたり、カワムツ、アブラハヤ、ザリガニ、トウキョウダルマガエルなどを見つけるのがとてもじょうずだなあ、と思いました。またさんかしたいと思います。(網代瑞輝・北小2年)



二度目の昆虫観察参加でした。大勢の参加だったのでカブトムシが採れるか心配でしたが、みな複数匹ずつ捕まえることができ、子ども達も満足そうでした。毎回、貴重なクヌギ林に立ち入らせていただき、所有者様に感謝いたします。今回は鳥の卵(コジュケイ?)や、貴重なバイカモも間近で観察することができ、とても充実した観察会だったと思います。また、山口さんによるゴキブリの解説はとても興味深かったです。少なくなりつつある身近な自然を大切にしなければならぬと、今回の観察会に参加して強く感じました。阿部隊長、関係者の方々、大変お世話になりました。(鈴木康之・北小4年保護者)



コジュケイの卵



北光クラブ・サマースクール2012

魚釣り教室

8月19日(日) 天気・快晴

夏休みも残すところ1週間、まだまだ暑い日曜日の午前中、黒川の街なかの河川敷に「水ガキ」の歓声が響きました。

鹿沼学舎との共催で、「ギーコン釣り」はじめ、水ガキ伝統(?)の漁法を体験しました。おとなでも膝まで来るくらいの流れを渡って中州に上がり、主催者が用意した割り箸の置き針、ギーコン釣りの竿に釣り餌と、各自持参の手網を携えて思い思いの「漁場」に散り、小魚捕りに半日興じます。去年は雨で中止になりましたが、今年は天候に恵まれ、暑かったけれど、水量も適当で、生命に満ちた川の豊かさを誰もが実感できたと思います。上流の魚であるカジカもいることがわかりました。捕った魚は最後に川に帰しました。

さて、水ガキ復活作戦は成功したでしょうか。

※ 参加者内訳

1年生 2名、2年生 6名、3年生 4名、4年生 10名、5年生 8名、
6年生 5名、保護者 16名+スタッフ4名
(計55名、他に鹿沼学舎から 名)



※ 参加者からいただいたおたより(一部省略)

今回の魚釣り教室では、カワムツや、コイもいて、つりざおがひかれるとわくわくしました。ぼくが、一番良かったのは、コイがつけそうだったことです。来年もやれば、いきたいです。

(栗山拓己・北小4年)



釣れたよ～!

魚つり教室の感想

8月19日、サマースクールの魚つり教室に行きました。最初は不安でしたが、友だちがたくさんいたので安心しました。(中略)

魚をつるえさは川ムシだったので少し気持ち悪かったけれど、すぐになれました。

ぼくは1ぴきつって、えさがなくなったのでさがしていると、友だちが、なんかのちぎょがいる、なんていっていました。そうしたら、視界に入らないぐらいものすごい量の魚がいました。

ぼくは、たくさんの魚にふれあえてよかったと思いました。(中西 慧・北小5年)

ぼくは、川で魚つりははじめてでした。

ギーコンをとるのもはじめてやりました。ギーコンのいる場所が分かりました。そのギーコンで5、6ぴきつれました。ギーコンは石が小石の上ののって、上ののっていても、とりにくい石をひっくり返して小石は、白いまくみたいにべたべたしている石をとるとギーコンがいるということが分かりました。魚は石と石の間から出てくるところにたくさんいることが分かりました。たぶんうえからエサにする虫が流れてくるからだと思いました。魚つり教室は楽しかったです。(柴田陸翔・北小6年)

北光クラブサマースクール 2012・魚釣り教室に親子で参加しました。

将史(小3)は釣りが好きなので、よく父と釣りに出かけるようになりました。先回の北光クラブの黒川の魚の観察に参加し、楽しくて、すぐ父と釣りに行ったりしました。8月19日(日)をととても楽しみにしていました。暑い中で、川の水が冷たくとてもキモチが良く、初めて、ギーコン釣りを2匹つれました。1匹は弱っていたので、すぐに川へにがしました。次に、大きなウグイが釣れました。エサになる川虫をさがすのが、たいへんでした。先生が、水槽に入れて、皆に最後に見せて下さったのが、すごかったです。

皆で釣ったので、水槽がたくさんになって、キレイでした。夏休み、サマースクールに他にも参加して、魚釣りが一番楽しかったようです。夏休みの自由研究として、学校へ提出できました。黒川の魚がいろいろいることが、わかりました。ありがとうございました。(大類留美子・北小3年保護者)

“黒川水族館2012”報告



恒例の水族館を8月1日～31日の1か月間開館しました。今年は8月2日（木）下野新聞、8月7、8日（火、水）栃木テレビにも取り上げていただき、鹿沼市内の方はもちろん、宇都宮市の他、県内北は日光市（今市）から、南は下野市、栃木市、佐野市より、見学の方をお迎えしました。年配の方が多く、川で魚を追いかけて遊んだ昔を懐かしまれる声を多く聞きました。巻末に館長からの報告を掲載しています。

北光クラブ・ブログで紹介 by 会長・渡辺真知子さん（8月5日付）（↓）

厳しい暑さの毎日ですが、

みなさんお元気ですか？

北光クラブサマースクールも今日は早朝から

自然観察クラブの昆虫採集でした🐞

この自然観察クラブの阿部さんは

とても温和で優しいクリーニング屋のおじさんです

きょうは阿部さんの紹介をしますね💕

8月2日の下野新聞に

黒川水族館オープンという記事が大きく掲載され

嬉しくなりました😊

阿部さんのご家族はみなさんととも物知りで

引き出しが多く、私も今までたくさんのことを

教えていただきました👨🍳

阿部さんは自然のことにとても詳しく、✨

奥様は環境問題など…🌊

息子さんは鉄道で🚆

お嬢さんは蛙🐸のことは任せて…って感じで…👧

クリーニング屋さんの後ろ側を

開放して下さって今回黒川でとれた魚類を

水槽などに入れて下さって公開して下さったのです



阿部さんは話し始めると止まらなく

壊れた電子図鑑のような方ですが…

どこにそんな知識を詰め込んでいるのかと思うくらい

何でも質問に答えて下さいます。👨🍳

夏休みの自由研究や観察に活用されるといいと思います📖

ます📖

是非阿部クリーニング(0289-62-3774)

までお問い合わせください。

北光クラブサマースクール魚釣り教室は

8月19日に行います。🐟

横根山・秋の自然観察ハイキング

～牧場、湿原、森林、そしてもうひとつの横根山の魅力～

「中生代の終わりごろ（約1億1000万年～6000万年前）、日本列島各地に大規模な火山活動が起こった。市内では北西部から中央部の山地で、この活動の名残りの岩石を見ることができる。マグマが冷えてできた岩石で火成岩と呼ばれ、花崗岩・閃緑岩・流紋岩・溶結凝灰岩などである。これらの岩石は全国的に見られ、濃飛流紋岩類と呼ばれる。

流紋岩と溶結凝灰岩は薬師岳・夕日岳・六郎地山などに見られ、花崗岩と閃緑岩は三枚石から横根山・中央部の笹目倉山付近に見られる。」

（鹿沼の自然・鹿沼市史叢書8より）

今回の横根山ハイキングは五段ノ滝方面まで足を延ばし、花崗岩の岩塊斜面を見学したいと思います。大きな花崗岩が堆積し、清水の流れる環境は、県内では他に類を見ないもので、夏も涼しく、珍しい植物も見られます。

行程：横根山ハイランドロッジ——横根山——井戸湿原——五段ノ滝
——横根山ハイランドロッジ

日時：9月16日（日）8：00 北小西門集合（解散は16：00 予定）

服装：長袖、長ズボン、防寒着、帽子、軍手、軽登山靴または運動靴

持ち物：リュックサック、水筒、レジャーシート、雨具、

お弁当、おやつ、お手ふき、タオル、ちり紙、メモ帳

あると便利な物：双眼鏡、図鑑、ルーペ、カメラ、

1/50,000 地形図は「横根山」

参加費：おとな300円、子ども150円

（今年度初参加の方は年間保険料800円）

問い合わせ：自然観察クラブ（090-1884-3774 阿部）



生き物係の手帖・2

メダカ

今年の黒川水族館には下野新聞社の高橋氏が取材に来て下さり、県央版に大きく掲載された8月2日には宇都宮の方が10名ほど来館された。またその記事を見てとちぎテレビの近江氏が取材に来られ、8月7日夜とその翌朝のニュースで取り上げて下さった。全期間を通じて宇都宮の他、下野市、佐野市、栃木市、日光市などからも来館者があり、いろいろと情報交換することができた。蛇口からチョロチョロ流している井戸水で水槽の水を冷やしてカワムツやオイカワ、ウグイを飼い、さらにおけに落としてカジカやアブラハヤ、ヤマメを飼っていることに感心されていた。

下野市から来られた方はメダカの研究をされているとのことで、その日も途中メダカ捕りをしながら鹿沼に来られたそうだが、メダカ捕りを人に見とがめられ怒られることもしばしばだそうである。僕も用水路で魚捕りをしている近くに住む人に注意され、「水鳥が魚捕りに来るんだよな」と厭味を言われたことがある。だから僕は満月の晩に魚捕りをすることにしている、と話した。

ところでメダカといえば大ニュースがあった。魚類19種であった今年の黒川水族館に20種類め、メダカが登場することになったのである。父の代からお世話になっている、実は僕の植物の恩師でもある六角フミ、安子両氏が、驚きの情報を持って来られたのである。それはお住まいの今宮町の自宅敷地内を流れる小川にメダカがいる、というものであった。しかも今年たまたまいる、というのではなく、毎年捕れるというのだ。僕は何か他の魚の幼魚ではないか、と言ったが、植物のスペシャリストでもある六角フミ氏にそれはヤボな質問であったろう。さっそく僕は手網とバケツを持って今宮神社の近くのご自宅に伺った。しかし網は必要なかった。フミ氏が手おけをバシッと川の流れの中にぶち込んで、上げると小さな魚が5〜6匹入っている。うん、確かに左右の目が大きい。ああ、これがメダカの特徴なんだ。

(次ページへ続く)

さて、魚捕りの話に戻る。今。用水路で魚捕りをする風景など全く見られない。この間、娘と2人でザコ釣りをしていたら、通りがかりの青年が車から降りて来た。そして「アユ釣りをしている人がいくらいるくらいで、日曜日だというのにザコ釣りしている人は一人もいませんね」と言っていた。そう、だれもザコ釣りをしないからザコは大きくなり、我々は20cmくらいのウグイを後から後から釣ることができた。用水路で手網を使って魚捕りをしたら、どれだけの魚が捕れるだろうか。それでも捕りつくすことは到底できないだろう。

魚を捕っても捕っても魚が減らない、本来の自然の川がいつまでもあってほしい、そんな川で遊べる子どもたちは幸せである。しかし実際のところ、学校の先生や大人たちは川から水ガキが絶滅してほっとしているのである。

「よい子は川で遊びませーん！」

ウナギは1年ぶりに脱走を試み、帰らぬ人(魚)となりました。今ごろ黒川の大きな石の下で「こわかった」と縮こまっているでしょう。(黒川水族館・阿部良司)



今月は満月が
2回!

鹿沼の自然・栃木の旅 月報第5号

2012年9月1日発行

北光・自然観察クラブ

鹿沼市上田町 1923

発行人 阿部 良司

年会費 1200円

ホームページでもご覧になれます→

クリーニングハウスあべ

